

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	前田 由紀子	職名	教授	学位	修士 (教育学) (九州大学 2004 年) 博士 (教育学) (福岡大学 2010 年)
----	--------	----	----	----	--

研 究 分 野	研究内容のキーワード
精神看護学、看護教育学	精神科看護師、現象学、コンピテンシー、看護継続教育、キャリア、リカバリー、ストレングス

研 究 課 題
精神科看護師のキャリア形成に関する研究 精神科看護におけるリカバリーに関する研究

担 当 授 業 科 目
精神看護学概論 (後期) (看護学科) 精神看護方法論 (後期) (看護学科) 精神看護学演習 (前期) (看護学科) 精神看護学実習 (通年) (看護学科) 看護教育論 (後期) (看護学科) 看護総合演習 (前期) (看護学科) 看護総合実習 (前期) (看護学科) 看護教科教育法Ⅰ (前期) (看護学科) 看護教科教育法Ⅱ (後期) (看護学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【精神看護学概論】</p> <p>人との関わりがケアの基本となる精神看護を理解し、精神疾患を持つ人に限らず精神的援助のあり方を強調し、心の健康を保持・増進するための援助法の基礎を教授した。学生の能動的な学習を促すために、「発達段階と危機」の講義後に「ライフサイクルの危機とその支援」というテーマでレポートを作成させ、自らの危機と支援された状況について考察させ、精神の発達について理解を図った。学生の反応として、メンタルヘルスに関心が深まったという感想が多く聞かれた。対象者やその家族の心理面の理解、共感能力の向上を目的に、精神疾患当事者や家族などの著作を5編読み、感想を提出させた。授業の進行と読書を重ねることで対象者の理解が進んだと思われる。国家試験対策を兼ねて、精神看護学概論に関する問題の解説を記述させポートフォリオの作成を行った。</p>
<p>授業科目名【精神看護方法論】</p> <p>精神看護学概論で学んだ基礎知識を活用しながら、精神の健康の維持および精神疾患からの回復を援助するための原理と方法を教授した。精神障害は、イメージがしにくいため視聴覚教材を活用することで理解が図られる。精神疾患の教材 DVD は、マイナスのイメージのみが、先行することがしばしばあるため、テレビやインターネットの動画などで、精神疾患を持つ人の健康な面が理解できるようなものを選んで視聴させた。精神疾患についてノート整理、国家試験問題を解く、精神科関連の著作を読むなどの課題を出し、ポートフォリオの作成を行った。課題は、3回に分けて提出させ、内容の不備がある場合、適宜指導を行った。</p>

<p>授業科目名【精神看護学演習】</p> <p>精神疾患、症状、治療など基礎的知識を確認後、統合失調症の事例をグループで展開した。精神に障がいをもつ人の援助に適切とされるオレム・アンダーウツドの理論とストレングスモデルを用い、精神障がい者やその家族のケアについてグループで十分にディスカッションを行った。今年度は2つの実習病院の指導者6名が演習に参加し、ディスカッションに加わった。指導者より具体例を提示され、精神科看護のイメージが捉えやすくなったと思われる。ディスカッション後は、グループごとに発表させ、その後、事例に沿って精神科看護のポイントの資料を作成し解説した。精神科病院のイメージがわからないという学生が多く、指導者に施設の特徴、治療の様子、日常の様子などパワーポイントを用いて説明していただき、学生には好評であった。課外においては、うつ病の事例を用い、個人ワークにて看護過程を展開させた。実習に必要な基礎力の定着および向上を目的にワークブックを作製し手書きでまとめさせた。</p>
<p>授業科目名【精神看護学実習】</p> <p>実習前は、事前学習（精神疾患、精神看護、精神科リハビリ等の基礎知識）の徹底を図り、学習不足の学生には課題を与え、複数回指導を行った。精神科の実習では不安・緊張が強い学生がいるため、オリエンテーションの充実に努め、スムーズな実習ができるよう配慮した。今年度はA・B病院の指導者が演習に参加したため、A・B病院の学生は緊張が軽減していた。演習において対話の練習を重ね、学生は患者のストレングスを引き出すために対話を活用した効果的な実習をすることができた。また、演習でプロセスレコードの強化を図り、実習の目的である自己洞察への意識が高まった。PSW から受け持ち患者の社会復帰について説明を受け、精神に障がいをもつ人の社会復帰について考察を深めることができた。国家試験対策として、実習期間中に国家試験問題を数問課題とし、解説をしている。</p>
<p>授業科目名【看護総合演習】【看護総合実習】</p> <p>7人の学生を担当し、精神看護領域の総合演習、総合実習に取り組んだ。今年度は、精神障がい者の訪問看護と精神科デイケアを総合実習の施設として展開した。精神障がい者の地域生活の理解が深まったと考える。4年間の統合の科目となるため、学生の自主性を重視し、学習を進めた。演習では、精神障がい者の在宅看護や就労支援、デイケアに関する文献検索を行い、当番制で文献クリティーク、ディスカッションを行い、思考を深めることに努めた。学生の問題意識に沿ったテーマで論文を作成し、研究的思考が反映されるように支援した。論文完成後は、パワーポイントを作成しゼミで発表会を行った。</p>
<p>授業科目名【看護教科教育法Ⅰ】</p> <p>「講義」形態の授業ができることを目的に授業を展開した。まず、学習指導要領に基づき、高等学校看護科教育の目標・教育課程を理解できるように、教育方法論・学習理論について図書を利用し、学びを深めさせた。模擬授業の展開においては、教材研究及び教材開発に積極的に取り組み、授業案の作成に取り組ませた。模擬授業の練習を重ね、実際に模擬授業を展開し、自身の授業について客観的に評価でき、自己の課題を明確にすることができた。</p>
<p>授業科目名【看護教科教育法Ⅱ】</p> <p>看護教科教育法Ⅰの学びを活かし、看護基礎教育における「演習」「実習」の学習形態の特徴等について関連する本を読むことで広い視野で考えることができるように指導し、講義と演習の一体的な授業設計について意見交換をすることができた。臨地実習の経験後であったため、臨地実習における指導計画・指導方法について、実習の特性、指導法について具体的に考えさせることができた。模擬授業は、「演習」の授業形態について授業案の作成を指導し、実習室における練習を重ねた。模擬授業の展開後は、授業を客観的に評価するとともに、授業研究の必要性の理解にもつなげた。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護学会		1984年4月～現在に至る
日本看護科学学会		2003年4月～現在に至る
日本看護研究学会		2003年4月～現在に至る
日本精神保健福祉学会		2007年10月～現在に至る
日本医学看護学教育学会		2007年10月～現在に至る
日本精神科看護技術協会		2008年4月～現在に至る
日本看護学教育学会		2008年4月～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) iOS/Android アプリケーション e-learning Nプラス (国家試験対策用 e-learning) 監修：安酸史子 (関西医科大学看護学部教授)	共	2019, 4	メディカ出版 iOS/Android アプリケーション	第 108 回看護師国家試験問題についてメディカ出版より依頼を受けた。今回は精神看護学分野の全4問について解答とその解説をした。 共著者：前田由紀子、安藤愛
(学術論文) 看護学科における初年次教育の取り組み	共	2020, 3	西南女学院大学紀要 Vol.24	①2018 年度より全学的にスタートした初年次教育の看護学科における教育プログラムを検討し、実施したものの報告である。看護専門職としてのキャリアデザインと将来の進路への動機づけとなる内容を含めたスタディ・スキルズの強化を図った。学生の到達度自己評価では 90%以上のものが目標を達成した。 ②共著者：高橋甲枝、目野郁子、新谷恭明、前田由紀子、他 6 名 ③P.11-21、担当部分：考察の検討
(翻訳)				
(学会発表) 1. The study on career development of certified nurse specialists in psychiatric mental health nursing in Japan [Poster]	共	2019, 6	ICN Congress 2019 Singapore	①本研究の目的は、日本の精神科病院に勤務する看護師が精神看護 CNS の資格を取得する過程とその後の活動を明らかにすることである。精神専門看護師を目指した理由は、＜精神科看護の質向上＞＜倫理的問題の解決＞＜専門性の向上＞＜リエゾン精神看護への学び＞の 4 カテゴリーに分類された。認定後の経験活動は、＜経験の積み重ね＞＜知識や技能の獲得＞＜対象者、集団へのコミットメント＞＜組織へのコミットメント＞の4カテゴリーが抽出された。 ②共同発表者：前田由紀子、立石和子、松林太朗、後藤有希、安藤愛

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
2. Trends in case studies on nursing focused on strength in psychiatric ward in Japan [Poster]	共	2019, 6	ICN Congress 2019 Singapore	<p>①日本における精神科病棟看護師の精神疾患患者へのストレングスに焦点を当てた看護の特徴を明らかにするために文研研究を行った。ストレングスに焦点を当てた看護の結果として、大きく患者の変化と看護師の変化があった。患者の変化は、「自立に向かう行動やセルフケア能力の向上」11件、「言葉による意思や希望の表出」7件、「患者—看護師関係の変化」2件、「家族関係の変化」2件、看護師の変化は、「患者本来の姿への気付き」2件、「患者に対する陰性感情の軽減」1件であった。</p> <p>②共同発表者：後藤有希、安藤愛、前田由紀子</p>
3. The Experience of Prompting the Growth of New Graduate Nurses in Psychiatric Hospital [Poster]	単	2020, 2	The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science(Osaka, Japan)	<p>①本研究の目的は、日本の精神科病院に就職した新卒看護師の成長を促した経験を明らかにすることである。就職後3年間において、新卒看護師の成長を促進した経験は、〈院内教育の充実〉〈積極的探究心〉〈先輩の支援〉〈患者とのかかわり〉〈看護上の失敗〉〈後輩の存在〉の6カテゴリーに分類された。新卒看護師の育成において、組織化された人材育成の体制が必須であり、それにより先輩の支援が有機的に新卒看護師に働いていた。新卒看護師の成長は先輩のロールモデルが最大の支援となる。</p> <p>②発表者：前田由紀子</p> <p>③The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science Programme Book.P.102</p>

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
看護実践者のコンピテンシーと大学教員に求められるコンピテンシーの関連性の究明	文部科学省科学研究費補助金(平成29～令和2年)	○(立石和子)、前田由紀子、(有澤舞)	4,550,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
西南女学院大学,看護キャリア支援センター、看護協会認定看護管理者教育課程「セカンドレベル」	講師	2019年9月6日

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

〔大学委員会〕 教務委員会 2018年4月1日～現2020年3月31日
--